地域のようすから　奈良県奈良市

三宅基之（機構副会長／奈良市担当）

奈良市は、人口361,622人（H28.3.1現在）、 小学校46校、中学校21校があります。2007年度に活動をはじめ、2009年1月に、「NPO法人　奈良・地域の学び推進機構」を設立。2015年度には、8団体、48プログラムが登録されています。授業外学習ポイント制度「学びのポイントラリー」の活用事例と効用をご報告します。

１　多様なプログラム作りに役立つ

青少年活動に関わっている有志が、地域で色々な大人と多様な体験活動を通して子どもが学ぶことを促す仕組みを作ろうと考え、「奈良・地域の学び推進機構」を設立し活動をはじめました。

２００７年度5プログラムから始め、今では８団体４８プログラムと少しずつ広がりを見せています。子どもたちが多様な体験活動に参加出来るようにするには、ポイントラリーの実施団体を増やすと共に、実施プログラムの内容をバランスのとれたものにする「企画の工夫」が大切です。

奈良市のプログラムの特徴は３つあります。

■野外活動センターが拠点の自然体験
■自然体験と農業・林業等の職業体験
■自然体験と環境教育の教科学習体験

その他には、歴史・文化と組み合わせた体験や環境保全のためのボランティア体験等です。

（１）プログラム構成を考える視点が広がる

これまでは、野外活動が中心のプログラムを作っていましたが、学びのポイントラリーを導入してから、４つの領域を意識することでプログラムの幅が広がりました。

例えば「川遊び＋水辺の生きもの調べ」で水質調査など教科につながるような環境教育の視点を取り入れたり、世界遺産ハイキングで沿道のゴミ拾いを合わせ市民ボランティアの活動時間を組み入れたり、農業などの職業生活体験の要素を盛り込むようになりました。これまでの野外活動＜文化・スポーツ体験＞という分野だけでなく、プログラムの工夫で、活動を多様化させる視点が生まれました。

＜生き物調べ隊＞

（２）地域の特色を生かしたプログラム

奈良市は世界遺産を活用した特色ある学校教育を目指しています。そのため奈良支部でも青少年野外活動センターを活用した世界遺産ハイキングを実施しています。これは学校での学習と地域での学びをつなげる試みとして位置づけています。また世界遺産東大寺と協力して寺での宿泊体験を実施しています。

＜世界遺産ハイキング＞

＜東大寺小坊主体験＞

２　つながりづくりに役立つ

初期は奈良市美術館や「なら100年会館」、市営キャンプ場等と、ポイントラリーによる連携を図りました。公共施設が提供する体験プログラムをつなぐことからネットワークの核を形成し、いろいろな大人が子どもたちと関わり、「地域の子どもを、地域で育てる」という運動を広げ、子どもたちに一元化した情報提供をしていく環境を整えるのが目標でした。

残念ながら、この目標は達成されたとは言えません。小さなNPO団体が、公立の社会教育施設のネットワークを運営していくには限界があります。行政担当者の有志でつながりを広げることはできても、人事異動などの影響を受けずに組織的に仕組みを維持していくには、引き継ぎなどの課題がありました。今は市営キャンプ場がポイントラリーに参加していますが、それはボーイスカウトが運営主体となっているためです。

（１）活動団体をつなぐ

現在では、青少年野外活動センターを利用する団体が制度に共感し、学びのポイントラリーを実施する団体が増えています。青少年野外活動センターという共通の活動の場がつながりを促し、活動内容で市民団体がつながり始めています。異なった分野の活動団体が共催で事業を行うことも始まりました。

＜おはなしかいと自然体験のコラボ＞

野外活動センターの環境でなければできない体験もありますが、実践例として提供する多くのプログラムは、それぞれの地域や校区でも実施できるものを重視しています。

（２）親子をつなぐ自然体験プログラム

最近では、自然体験と環境教育を合わせた幼児向け環境教育プログラム「森のムッレ教室」の親子向け活動をすすめています。学びのポイントラリーの対象は小学生以上ですが、５，６歳児とその保護者の若い世帯に対して自然体験と教科学習的な要素を組み合わせたプログラムを提供することで、新たな子育て支援の実践につながればと考えています。

またー つ上のクラスとして小学校低学年では、野外生活と冒険を体験するストローバレ教室も人気です。

＜森のムッレ教室＞

＜ストローバレ教室での冒険体験＞

３　「協働」の仕組みづくりに役立つ

地域で組み立てる「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」の放課後子ども教室でも、学びのポイントラリーが活用されています。

（１）校区の年間プログラムをつなぐ

奈良市立東市小学校区では、奈良教育大学の学習支援サークルTNP（東市日本一プロジェクト）と地域住民、NPO、学校、行政機関が、校区で連携する学習支援や体験活動に活用しています。

毎週の放課後子ども教室「まなびーや」での学習支援や児童館での土曜日活動、「東市キッズ探検隊」、毎年恒例の「５泊６日東市まるごと子ども合宿」、地域の祭り「まるごと子どもフェスタ」など校区内で実施される様々なプログラムにポイントラリーを活用することで、子どもたちが年間を通して地域のいろいろな大人と一緒に多様な活動に参加する仕組みができています。

（２）おとなの学び合いスキームとして

子どもたちに関わる土曜日活動や放課後の活動で、地域と学校が協働する場面が求められています。それらの活動の質を向上させる対話には、共通の枠組みがあると便利です。子ども時代にバランスよく多様な体験をすることが望まれます。それを具体的に企画するとき「４つの分類」スキームは考え方の助けとなります。プログラムの企画検討や検証ができ、スタッフ研修にも便利です。

大学と連携した地域の教育支援人材の育成活動にも積極的に関わり、一般社団法人　教育支援人材認証協会の認証を受けた指導者へ実践の場の提供も行っています。教員を目指す学生のための「学習支援AI合宿」など実践研修とプログラム作りや実施後の振り返りにもポイントの仕組みが使われています。

＜放課後子ども教室＞

＜学習支援ボランティアのAI合宿＞

＜ポイントカードを見せ合って･･･＞

＜まるごと子ども合宿＞

地域のようすから　岡山県矢掛町

吉岡　真太郎（矢掛町教育委員会教育課　生涯学習係）

人口14，764人（H28．3．1現在）の矢掛町は、岡山県南西部に位置し、参勤交代の宿場町として栄え、昔ながらの本陣・脇本陣も今なお旧姿をとどめる文化と田園の町です。

恵まれた自然環境の中で地域の個性、特性を活かし、地域と学校が連携して、子どもたちの学びと育ちを応援しています。

矢掛町には７地区の行政区があり、それぞれに小学校があります。学びのポイントラリーは、平成２１年７月に三谷地区でスタートし、続いて１０月に山田地区で実施しました。平成２２年１月からは全町へ取組の輪を広げていきました。

平成２２年４月から、全町（７地区分）の取組を教育委員会でまとめて、実施することとし、多くのプログラムを準備し、本格稼働となりました。

平成２７年度においては、１４０のプログラムを登録していますが、公民館の主催事業が大半を占めています。公民館事業もポイントラリーの対象プログラムにすることで、児童の参加とともに、保護者の参加も増え、活動に活気が生まれ、地区住民同士の交流が深まるという効果も生まれています。

また、児童・生徒の参加意欲を向上させるため、矢掛町独自で２０ポイント達成者に記念品を進呈する制度も設けており、毎年、約６０人の子どもたちが達成しています。

今後の課題としては、現在、文化・スポーツに関するプログラムが主体を占めており、その他の分野へも取組の幅を広げていきたいと思います。

また、隣の井原市のプログラムへ参加する児童もわずかでありますが出てきており、今後相互の交流が深まるよう期待しています。児童が、地域の中で様々な人と関わりながら学ぶ機会を提供することにより、社会の中で自立していく豊かな人間力を育んでほしいと考えています。

平成27年度の事例から

（１）平成２７年６月１９日（日）実施
農と食の体験教室
もちつき中・高生ボランティア、地域のボランティアの協力を得て、３０kgのもち米で９臼つきました。

（２）平成27年7月26日（日）実施
楽しい自然観察～小田川の生き物たち～
漁業組合長に協力いただき、川に入って自然観察をしました。

（３）平成27年10月17日（土）実施
手芸教室
不用になった布を裂いて糸状にし、ダンボールで作った簡易な織り機で手織りしました。

（４）平成27年11月15日(日)実施
美川地区文化祭
展示部門の見学に小学生が来てくれました。
フォトコンテストの写真を選んだり、地域の方の力作を見ています。

地域のようすから　大阪府貝塚市

鈴木司郎（貝塚市教育研究センター所長）

地域ぐるみでこどもの学びを育む貝塚市。
市民・教育機関・企業・行政それぞれが子どものためのプログラムを実施してきました。
それらを「学びのポイントラリー」に登録することで、市内の児童・生徒に広報し、
より多くの参加を促しています。

１　貝塚市の活動の概要

貝塚市では、市内にある自然遊学館、善兵衛ランド、図書館、青少年会館、学校、教育委員会が協働しながら、体験を地域の学び推進機構の「学びのポイントラリー」で記録することで、貝塚で育ったことを誇りに、自信と夢をもって生きていく子どもを育てています。平成２５年に、貝塚市小中学校の実行委員主催の「科学の祭典」を立ち上げました。この科学の祭典は、今年３年目を迎え、約８００名の参加がありました。科学の祭典を学びのポイントラリーとタイアップさせることで、学びのポイントラリーが市内に広く発信できたと考えています。１年を通じて「学びのポイントラリー」の活動を教育委員会が後援することで、活動を広げる大きな原動力になっています。

＜プログラム一覧などの配布＞

貝塚市登録プログラムの周知を徹底するために、見て楽しい、読んで楽しい一覧表を作成し、市内の家庭・地域関係施設に配布し、市のＨＰにもアップしました。

■地引あみ体験

■パナソニックソーラーカー

■共栄バブル液体窒素

2　教育コミュニティづくり

地域創生に教育からアプローチしようと、教育研究センターと先生の有志がプロジェクトチームを組んで「貝塚学」の創造に取り組んでいます。また、先に紹介した公共施設が提供する体験プログラムを、学びのポイントラリーで貝塚学とつなぐことでネットワークを形成し、地域の様々な大人が子どもたちと関わり、「地域の子どもを、地域で育てる」という運動を広げ、地域全体で子どもたちに関わっていく環境を整えました。

■野外活動センターのボランティア体験

スタートして３年目ですが、教育委員会が主導することで順調に推移しています。しかし行政だけで、学校と社会教育施設のネットワークを運営するには限界があります。仕組みを行政だけで維持していくには人的規模の課題があるからです。

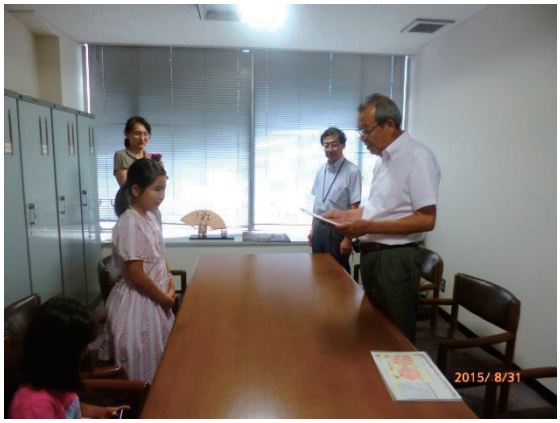
これからは、学校と公共施設を学びのポイントラリーでつないだネットワークの核としながら、制度に共感し学びのポイントラリーを実施していただける、地域の教育支援団体や市民団体との連携を増やすことを目標にしています。貝塚学を使った体験プログラムがその起爆剤になることをねらっています。

■「電車deゴー」プログラム

■「名探偵つげさん」プログラム

３　つなぐ工夫と仕組み

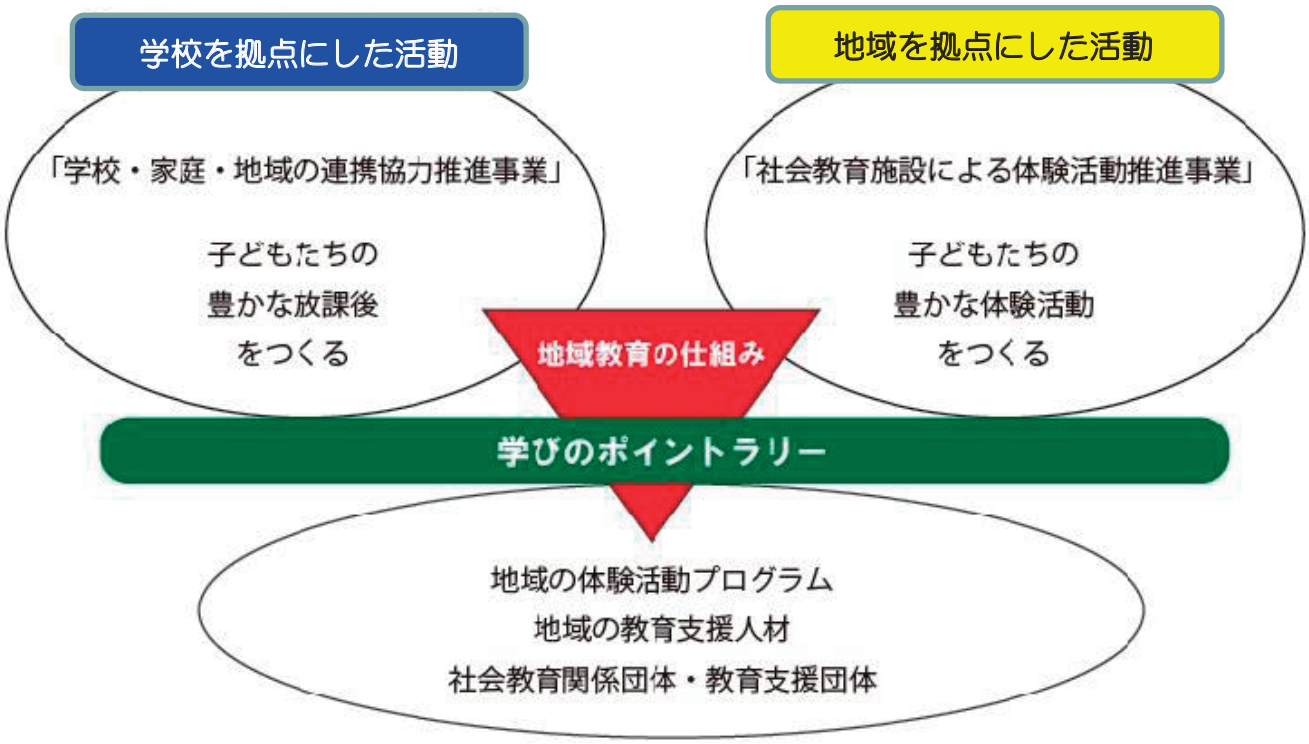
教育委員会が学びのポイントラリー制度を推進することで、学校教育と社会教育の連携をはかっています。４０ポイント認定取得者には、認定証を教育委員会から手渡すこともしています。



貝塚学によって、学校で地域のことを学ぶ機会を増やします。学校では時間的に足りない部分を、土、日や放課後に行われる地域の体験活動を充実させる工夫をします。その上で市民団体や大学と連携し、地域の教育支援人材の育成活動にも積極的に関わり、「貝塚学」を基盤にした教育コミュニティづくりの実践研修を行っていきます。学校教育と社会教育が「地域の子どもを、地域で育てる」で協働する事業を、今後もすすめていきたいと思います。

教育支援人材認証協会

http://www.jactes.or.jp/



＜地域教育の仕組み図＞